



アクテノン

NO. 90

名古屋市演劇練習館機関紙

エッセイ

「出逢いと縁に背中を押されて」

おぐりまさこ (空宙空地 代表)



空宙空地第四回公演
「砂に浮かぶ町」
'16年1月29日～30日
七ツ寺共同スタジオにて



空宙空地第三回公演
「ガラスのエイリアン」内短編「ハンコクグル」
'15年9月25日～27日
七ツ寺共同スタジオにて

演じることに携わったのは、30歳を過ぎてからでした。身体を大きくこわしたのがきっかけです。人生の最期に「自分の後悔を他人のせいにはしたくない」と、その時強く思って。「始めるの遅いかもしいけど、あんたには無理って言われるだろうけど、挑まずに後悔するのと、挑んで後悔するのなら、やっぱり後者がいい」と、映像俳優を目指してダメもとでタレント事務所に入所しました。実はそれまでは嫌だったんです。舞台演劇。子どもの頃に初めて観た舞台で、大人たちのルーティンワークみたいなものを感じちゃって、そこからずっと。でも事務所所で出会った年下の先輩たちがやってる舞台を観に行く機会がありまして、まあ、行ったんですが…その先輩たちは長年の偏見を吹っ飛ばしてくれました。すぐに彼らの足にしがみつきの、なんとかその集団の端々に置いてもらいました。でもそこで待っていたのは「できない」という現実。不器用な上に物覚えも理解力も悪く、何より歳を重ねてた分だけ着込んだプライドみたいなものをなかなか脱ぐことができませんでした。何度も、向いてない、やめろと言われ続けてたのを、なぜ今ままで続けてこれたのかとても不思議です。それまでは好きで始めたことでも、何も続いたためしかなかったのに。今思えば先輩たちからの厳しくも愛ある言葉が原動力だったのかもしれない。何しろ数十年抱いてきた偏見をすっ飛ばしてくれた人たちですから。とにかく、できない悔しさと必死に闘って、憧れの俳優たちに少しでも近づきたくて、目の前にあるチャンスというチャンスをこぼさず拾って必死にもがいて、気がつけば15年経ってました。

そして現在。
その頃から憧れてた先輩の一人～関戸哲也氏と今、タッグを組んでいます。空宙空地というカンパニーで、ある時は二人で、またある時は実力派俳優や若手クリエイターを集めて、去年と今年はほぼ毎月、どこかで何かを上演しています。不思議な縁で、十数年別々の集団で演劇を続けながら、なんとなく一年の報告をし合うくらいに続いていた二人が、ある企画をきっかけに「お、もう一回一緒にやろうか」と向き合ってみたら、なんの化学反応か、あれよあれよと全国各地で作品を上演することに。一人芝居『ライト』で大阪、津、札幌、福岡を巡り、昨年6月と今年5月は津あけぼの座アゲキンリーズに抜擢いただき、さらには『如水』が一人芝居フェスティバル「INDEPENDENT」で177組が目指した2016年の全国ツアー作品10作の中に選ばれ、6都市で舞台に立たせてもらいます。こんなにたくさん地域の人に観てもらい、全国各地に刺激をもらえる演劇仲間ができるなんて、数年前までは予想もしてませんでした。でもここからなんです。これから実現したいことが目白押しです。まだまだ力不足ですが、めげずに前進したいと思っています。私の背中を押してくれているのは、いつでも出逢いと縁です。とても感謝しています。それらがくれるチャンスに飛びつくタイミングは、ほんの一瞬しかないと思っています。だからこれからも憧れや直感に素直にわがままに、“ぴょん”と乗らせてもらいます。「後悔しても後悔しない」ために。

トピックス

産声あげた 劇団「座・なかむら」

なかとしお (演出家・劇作家・役者)



劇団「座・なかむら」
活動の様子
中村文化小劇場にて

2016年4月5日、中村文化小劇場は、熱気に溢れた。「本劇団は地域の文化振興に貢献するとともに、勇気と感動と生きる喜びに満ちた舞台創りに邁進し、すべての参加者が演劇の楽しさを心から分かち合うことを目的とする。」(規約第4条)と意気高く宣言する、名古屋市中村区の劇団の誕生であった。
私も、これまでいくつかの劇団の結成と解散、盛衰に関わってきたが、地域に根差そうとすることわざしを持った劇団に関わるのは初めてで、結成前からワクワクして、久しぶりに心が弾んでいる。
「座・なかむら」は、中村文化小劇場と演劇練習館アクテノンの座付劇団として誕生した。それは、4年間続いた「プロに学ぶ演劇講座」の必然的な発展として生まれた。その転機は、4年目の昨年にあった。1年目の「声の表現」に続き、2年目は「コントで弾け」、3年目「台詞で弾け」たりピーター(大変多く参加していただいた、ありがたいことである)たちは、10数回で終わる演劇講座に飽き足らず、本格的な芝居創りに挑戦したいと意欲を燃やし、館長はじめ劇場スタッフの快い協力もあって、昨年の講座は、「役

創りで弾ける」と銘打って、ナント7か月間30数回にわたる稽古を積み重ね、自分たちで小道具・衣裳も用意する発表会をやったのけてしまい、その延長として誕生したのだった。
むしろ、演劇講座と劇団では、月とスッポン、天と地ほど違う。お膳立てが出来ていてお客様として身を運べば何かできる講座と違い、劇団ともなれば、運営から公演の組み立てや宣伝等、すべてを劇団員が主体的に行動しなければ事が進まない。誰も歩いていない道を作っていかなければならない。
結成総会では、「高校演劇以来、現役時代にはできなかった演劇にこれからは邁進したい」「自分を表現したい、ここでならできる気がする」「自分を変えたい」という声が相次いだ。まっとうな人間が生きにくい世の中に急速になりつつあるこの日本社会の中で、自分を取り戻す、自分が自分の主人公になりたいという願いに応える劇団活動こそ、「座・なかむら」の生命線だろう。劇団員の皆さんと共に作っていかねば！と固く決意をした春の一日であった。

アクテノン・シャワー

■ キャンドル演劇奨励基金の助成作品募集

キャンドル演劇奨励基金(メ〜テレ事業が平成5年に設定)が、平成28年度の助成作品を募集します。愛知県内に活動拠点を置く演劇団体の舞台公演が対象です。3作品を選考して、各30万円を助成します。募集の要項は下記の通りです。

1. 対象作品: 愛知県内に活動拠点を置く演劇団体の県内舞台公演 3作品
2. 公演期間: 平成28年10月1日～平成29年9月30日
3. 助成金額: 1作品 30万円
4. 募集期間: 平成28年6月30日(木)まで
5. 応募方法: 所定の申込書を下記へ送付
6. 申込書の請求および送付先: 〒105-8574 東京都港区芝3-33-1
三井住友信託銀行 リテール受託業務部 公益信託グループ
キャンドル基金担当 (TEL 03-5232-8910) 申込書ダウンロードサイトアドレスは
<http://www.smtb.jp/personal/entrustment/management/public/example/list.html>

■ アクテノンアドバイザーのお知らせ

演劇についての相談・質問をお寄せください。(相談料無料)
①～⑦の事項を記入し、act@bunka758.or.jp もしくは FAX.052-413-6632に、ご送付ください。

- ①相談・質問するアドバイザー名
- ②お名前
- ③年齢
- ④地域
- ⑤所属団体(任意)
- ⑥メールアドレス
- ⑦ご質問内容

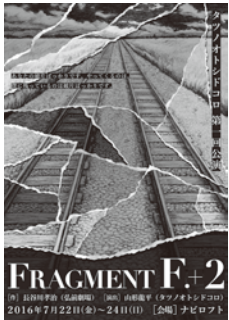
(アクテノンアドバイザー)

- 金子 康雄 <劇座>(舞台監督など)
平塚 直隆 <オイスターズ>(劇作など)
村瀬 満佐夫 <劇団翔航群>(照明家)

アクテノン利用団体紹介

- ①発足年
- ②団員数
- ③主な上演作品/会場(上演年)
- ④連絡先

演劇 タツノオトシドコロ



愛知県出身ではないが、名古屋市に住んでいて、同じタツ年生まれの共通点を持つ山形龍平と樋口大輔の、30代目のトシゴロの2人が、お互いのオトシドコロを探していくために立ち上げた演劇ユニット。

物語は勿論のこと、演劇を俳優と演出を介してお客様に提示し、演劇でしか体験できない俳優の楽しみと劇場空間を観客とともに共有していく、ことが目標。

と、真面目に書いてみたけど、観劇後の茶話会話になればそれだけで最高です。

アクテノンに一言 稽古場はアクテノンと決めています。設備もそうですが、「アクテノン」という響きが素敵です。いつもいつも、お世話になっています。これからもよろしくお願いします。

- ①2016年
- ②2名
- ③『FRAGMENT F.+2』/ナビロフト('16年予定)
- ④E-mail: tatsuno.otoshidokoro@gmail.com

演劇 ゲボゲボ



代表、右角81が自らの妄想を具現化したいがために立ち上げた。漫画やアニメなどをモチーフとした二次元的な演出を多く取り入れるスタイル。演劇や音楽や漫画などを媒体とし、愛を持ってハチャメチャにハイスピードに創り上げる。愛とか、恋とか、そんな童貞くさい幸せな演劇をする事にやっきになっている。そんな団体。

[次回公演]第三回名古屋演劇杯参加 ゲボゲボ第四回目公演「だれも笑ってはならぬ」8月26日～28日 G/P i t

アクテノンに一言 公園に憩う人々を通り抜けて、アクテノンのあの白い建物を前にすると、さぁ稽古がんばるぞ！と気合いが入ります！これからも、お世話になります。

- ①2010年
- ②8名
- ③『食い物の恨みは怖い』/ナンジャール('10年) 『フランケンシュタインの妻』/ナンジャール('11年) 『美しい私とその他』/Spazio rita('14年)
- ④右角81
<http://gebogeboda.jimdo.com>
E-mail:gebogeboda@gmail.com

公演のご案内

★アクテノンの利用団体の公演をご案内します。 ①会場 ②日時 ③料金 ④問合せ先

楽演SUDAKU5.5 Vol.3 『雨と猫といくつかの嘘』	<ol style="list-style-type: none"> ① 名古屋市青少年交流プラザ ユースクエア ② 6月18日(土) 14:00 19:00、19日(日) 11:00 15:00 ③ 前売1,500円(当日1,800円) ④ http://rakuensudaku55.jimdo.com ☎080-3673-5500 「100万回生きた猫」の絵本をモチーフに作られた脚本です。ぜひ観に来て下さい!
劇団BB★GOLD 第2回公演 『ミノタウロスの悪夢』	<ol style="list-style-type: none"> ① 名古屋市千種文化小劇場(ちくさ座) ② 7月1日(金) 14:00 19:00 ③ 前売1,500円(当日2,000円) ④ ☎090-7952-1344 bbgoldside@gmail.com おもしろい作品です。ぜひ観てください。
虚構オメガ 虚構オメガプロデュース 『パンの耳』	<ol style="list-style-type: none"> ① ナンジャール ② 7月9日(土) 11:00 15:00 19:00、10日(日) 11:00 15:00 ③ 一般2,000円 学生1,500円(予約・当日共) ④ ☎090-9269-5309 omega_reservation@yahoo.co.jp http://omegafiction.com 名古屋を拠点に活動する4団体による公演。
タツノオトシドコロ 第1回公演 『FRAGMENT F.+2』	<ol style="list-style-type: none"> ① ナビロフト ② 7月22日(金) 19:30、23日(土) 14:00 19:00、24日(日) 15:00 ③ 前売2,000円(当日2,300円) 学生前売1,500円(当日1,800円) ④ ☎090-7110-9573 tatsuno.otoshidokoro@gmail.com 第1回目の公演です!お待ちしております!



編集発行/平成28年5月25日(年4回)

公益財団法人名古屋市文化振興事業団 [演劇練習館 [アクテノン]]

〒453-0841 名古屋市中村区稲葉地町1-4-7

TEL 052-413-6631 FAX 052-413-6632

※この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

